

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：34440

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00358

研究課題名（和文）戦後上海における国民政府の対日宣伝機関とその刊行物をめぐる多角的研究

研究課題名（英文）A Multifaceted Study of the Nationalist Government's Propaganda Agencies and Their Publications for Japan in Postwar Shanghai

研究代表者

趙 夢雲 (Zhao, Mengyun)

東大阪大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：80390152

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は1945年から1949年にかけて、上海における国民政府の対日宣伝活動及びそれを管轄する関連機関、中国文化人の対日姿勢、引揚げを待つ邦人の動向と文芸活動の実態調査と究明を試みるものである。研究成果としては、改造日報社、中央宣伝部対日文化工作委員会及び亜東協会の活動に関する論文の発表、基礎資料の整備、本研究の総合的完成として研究書『戦後上海における対日宣伝機関とその刊行物 解題・細目』（ゆまに書房刊）の出版（2022年2月初版、2023年1月再版）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後上海に複数の国民政府系対日宣伝機関が設置されていた。資料の逸散が甚だしいこともあって、それらの機関の活動は謎に包まれて、解明されていない課題が多い。それらの課題の解明によって、国民政府の対日政策の策定とその意図、日本及び中国の情勢、戦後の米中関係・日米関係の変遷、中国知識人の対日感情、邦人居留民の文化・文芸活動などが自ずから浮かび上がってくる。終戦直後の日中関係史、日中文化人交渉史の研究において不可欠な作業である。

研究成果の概要（英文）：This research aims to investigate and clarify the following topics during the period between 1945 and 1949 in Shanghai: the Nationalist government's propaganda activities towards Japan, the related institutions that controlled these activities, the attitudes of Chinese intellectuals toward Japan, and the movements and literary activities of Japanese nationals awaiting repatriation. The results of this research include: (1) the publication of articles on the activities of the Kaizo Nippo, the Cultural Work Committee of the Central Propaganda Department, and the Institute of East-Asian Relations, (2) development of basic materials, and (3) publication of a research book, Propaganda Agencies and Their Publications for Japan in Postwar Shanghai: A Comprehensive Overview and Detailed Descriptions (published by Yumani Shobo, first published in Feb. 2022, reprinted in Jan. 2023) as a comprehensive completion of this research.

研究分野：日本近代文学、日中関係

キーワード：上海 戦後 対日宣伝 改造日報 亜東協会 留用 邦人居留民 対日和約

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「改造日報」は戦後、上海を接収した国民政府第三方面軍司令官湯恩伯の指示により引揚げを待つ邦人の思想を「矯正」し、「民主的知識」を宣伝するために創刊された中国当局が営む邦字紙だった。日刊紙の他、邦字誌「改造週刊」、「改造評論」などの編集・発行も行われたが、共産党地下組織との関係など、種々の事情により、一年足らずで休刊に追い込まれ、改造出版社に改組された。その後、華字誌「日本論壇」「改造雑誌」「導報月刊」「亜洲世紀」等の対日宣伝雑誌を発行していた。改造出版社が対日宣伝を任務とした亜東協会に合流した後も、「亜洲世紀」は亜東協会の機関誌として1949年5月まで存続した。山本武利の『朝日新聞の中国侵略』（文藝春秋、2011年）は、戦後創刊された「改造日報」を戦中の国策邦字新聞「大陸新報」の延長として捉え、高綱博文の「最後の上海日本人居留民社会 上海『日僑集中区』の実態」（高綱博文著『「国際都市」上海のなかの日本人』所収、研文出版、2009年）も「改造日報」に論及している。同氏の中国語論文「上海最後の日文報紙『改造日報』 圍繞其“灰色地帯”背景的考察」（「史林」、2017年第1期）は、グレーゾーンの視点から「改造日報」及びその周辺を検証している。また、本研究の研究代表者の趙も「改造日報」の沿革をめぐって「特殊時代の異色新聞」という題で研究発表（植民地文化学会2012年総会研究発表会、2012年）をし、のち論文「敗戦後上海の日本語新聞 『改造日報』の誕生と終焉」（「植民地文化研究」第12号、2013年）を発表した。

しかし、戦後上海における国民政府の対日宣伝機関（改造日報社、改造出版社、国民党中央宣伝部対日文化工作委員会、亜東問題研究会、亜東協会など）の全容を究明する研究は管見ではまだない。それらの機関によって発行された雑誌及び「叢書」と呼ばれる非定期刊行物に関しては、資料の逸散が甚だしいこともあって、解明されていない課題が多い。それらの課題の解明によって、当時の国民政府の対日政策の策定とその意図、日本及び中国の情勢、戦後の米中関係・日米関係の変遷、中国知識人の対日感情、邦人居留民の文化・文芸活動などが自ずから浮かび上がってくる。終戦直後の日中関係史、日中文化人交渉史の研究において不可欠な作業である。

2. 研究の目的

本研究は上述した課題を意識し、改造日報社、改造出版社、中央宣伝部対日文化工作委員会、亜東問題研究会、亜東協会など戦後上海における国民政府の対日宣伝機関の活動の究明を主要研究目標として設定した。

戦後上海における国民政府の複数の対日宣伝機関とそれらの機関が発行した数多くの雑誌は創刊と廃刊を繰り返しながらも、各種日本問題の特集を頻繁に掲載し、史料価値が高い。そのため、後に複数の雑誌と出版社より、再録或いは復刻出版されている。一例に、改造出版社が発行した「日本論壇」は、その良質な内容が評価され、2009年12月に中国国家図書館出版社によって復刻出版された全9巻からなる『日本研究五種』に収録されている。巻頭の序文では、「日本論壇」などは「貴重」で、数多く刊行された当時の日本研究雑誌のなかでも「代表性」があるものだと強調し、復刻出版は「歴史研究の深化に寄与することを期する」と目的を説明している。

無論、本研究は単なる資料整備・事実確認だけを目標とせず、戦後、日中文化人の交渉、在留邦人の文化・文芸活動及び周辺領域の複合研究をも意識している。従って、戦後上海に設置された対日宣伝機関の活動実態の確認を手掛かりに、対日宣伝機関が発行した刊行物の対日「宣伝」から「研究」「助言」への変化の探究、一連の定期・非定期刊行物から反映された在留邦人の文化・文芸活動の検証、戦後国民政府の対日政策と在留邦人の文化・文芸活動の相関性の検討も研

究目的とした。戦後上海から日本国内へと連なる日中文化人のネットワーク、日中文化人の交渉、中国文化人の対日姿勢など、文化・文芸周辺の問題へ押し広げてゆくことによって、「外地文化・文芸」研究の空白の一つを埋めることにもなり、植民地文化研究全体の進展に寄与するものであると認識している。

3．研究の方法

研究基盤の確立と研究を具体的に進展させるために、まず文献情報の整理と基礎資料調査に研究の力を置いた。第一段階として、改造日報社、改造出版社、中央宣伝部対日文化工作委員会、亜東問題研究会及び亜東協会の設立経緯を確認するところから着手した。各機関が発行した定期・非定期刊行物の調査を行い、記事のデータベースを作成した。ある程度記事データベースの整備が進んだ時点で、関連情報に注意を払い、内外の研究者との情報交換をしながら、中国国内の関連図書館及び公文書館において更なる調査対象事項を拡充し、内容分析に移った。また、周辺関連領域の資料の収集をも心がけて、研究の深化をはかった。

資料調査と分析で判明した事実を所属機関の研究紀要、所属学会の学会誌等に発表し、関連シンポジウムで報告した。上海社会科学院歴史研究所が編集・発行する学術論文集への投稿も試みた。研究の総合的完成として、研究成果の集約である『戦後上海における対日宣伝機関とその刊行物 解題・細目』を出版した。

なお、研究期間中、折悪しく COVID-19 の感染拡大という未曾有の事態に遭遇し、厳しい入国制限と航空会社の運航休止のため、当初予定していた資料調査と現地踏査を予定通りに行うことができず、やむなく研究期間を一年間延長した。研究計画も適宜に調整し、現地知人の協力で入手した新資料に、以前収集した資料を加え、研究課題周辺の関連文献の購入も積極的にを行い、基礎研究資料の精読と分析に努めた。

4．研究成果

(1) 研究基盤の構築

本研究課題は、当該分野の研究基盤の構築から着手した。上海図書館徐家匯蔵書楼とアジア・アフリカ図書館(東京)所蔵の「改造日報」を中心として、中国国内の図書館、公文書館及び古本屋などから入手した「改造日報児童新聞」「改造週報」「改造評論」「新生」(以上日文)、「導報月刊」「日本論壇」「改造雑誌」「改造論壇」「亜洲世紀」(以上中文)、「改造画報」(中文、一部日文と中文)の記事題目を最大限に採録した『戦後上海における対日宣伝機関とその刊行物 解題・細目』(ゆまに書房刊、2022年2月25日1版1刷、2023年1月31日1版2刷)を上梓した。記事細目に、国民政府の戦後の対日施策、中国在留邦人(日僑)に対する国民政府の教育と宣伝、日僑管理処の運営、在留邦人の自治活動、引揚げ関連の動向、武田泰淳、堀田善衛、内山完造ら文化人の投稿など、膨大な情報が含まれている。解題では、関係者の回想及び一次資料に基づいて、改造日報社から改造出版社、中央宣伝部対日文化工作委員会、亜東問題研究会を経て亜東協会に至るまでの対日宣伝機関の組織変遷を詳細に分析し、総合的に検証している。

(2) 新たな研究課題への発展

調査の段階で改造日報社と1946年2月に文部省の認可を受けて社団法人として発足した「中日文化研究所」(亜東協会も機関誌「亜洲世紀」第3巻第2・3合併号において、中日文化研究所を紹介している)との繋がりを知り、所長の菊地三郎は改造日報社社長陸久之の援助を得て研究所の機関誌「中国資料」を4号まで続刊し、島田政雄が上海から引揚げた際、陸久之らの手配で密かに持ち帰った中華全国木刻協会から提供された版画は、中日文化研究所の主催で1947年2

月 19 日から 28 日にかけて銀座の三越で展示されたことも判明した。しかし、本部を上海、支部を東京に置くという構想を持ちながらも、「中日文化研究所」上海本部の設立がうやむやのうちに消えてしまった原因は何か、改造日報社は東京の「中日文化研究所」と果たしてどのような関係にあったか、また、中華全国木刻協会はどのような経緯で「中日文化研究所」に版画作品を提供したのか、戦後日本と中国においてほぼ同時期に展開された木版画運動から共通背景を見出すことができるか、新しい研究課題へ発展する手掛かりを得ることもできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第20号
2. 論文標題 亜東問題研究会から亜東協会へ 戦後上海における国民政府対日宣伝研究機関の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 植民地文化研究 資料と分析	6. 最初と最後の頁 105～117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第三輯
2. 論文標題 藏本英明之失踪：陰謀抑或偶發事件?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代中國與世界	6. 最初と最後の頁 58～82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第38号
2. 論文標題 小泉讓『赤い腕章』を読む 戦争の不条理に苦悩する「敵国人」の上海体験	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国文化研究	6. 最初と最後の頁 1～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第7号
2. 論文標題 改造日報社掲載戦後国民政府の対日施策及び邦人居留民に関する記事集成（後編）――一九四六年二月一日～八月五日――	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ASIA ―社会・経済・文化―	6. 最初と最後の頁 29～130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第37号
2. 論文標題 戦後上海における中央宣伝部対日文化工作委員会の活動 「改造日報」の記事を手掛かりにー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国文化研究	6. 最初と最後の頁 15～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第6号
2. 論文標題 改造日報掲載戦後国民政府の対日施策及び邦人居留民に関する記事集成 (前編) 一九四五年十月五日～一九四六年一月三十一日	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ASIA 社会・経済・文化	6. 最初と最後の頁 51～157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第36号
2. 論文標題 上海：非常時の日常 (二) 可東みの助の漫画を読み解く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国文化研究	6. 最初と最後の頁 107～132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 趙夢雲	4. 巻 第39号
2. 論文標題 戦後中国世論の対日観 亜東協会「対日和約意見」を視座に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国文化研究	6. 最初と最後の頁 19～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 趙夢雲
2. 発表標題 「改造日報」とその周辺
3. 学会等名 日本上海史研究会・アジア・アフリカ財団共催シンポジウム「戦後上海における対日情報戦のグレーゾーン 『改造日報』を中心として」(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 趙夢雲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 463
3. 書名 戦後上海における対日宣伝機関とその刊行物解題・細目	

1. 著者名 木田隆文、趙夢雲（共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 琥珀書房	5. 総ページ数 650
3. 書名 上海文学 復刻版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------